

会 議 報 告 書				
会 議 名	令和6年度第1回白井市郷土資料館運営協議会会議			
場 所	白井市文化センター2階 かおりホール (中ホール)	日 時	令和6年7月18日(木) 15:30~16:45	
報 告 者	郷土・プラネタリウム班	職・氏名	学芸員 齋藤 郁音	
出 席 者	(委 員) 倉田委員(会長) 古里委員(副会長)・鈴木委員・横山委員・川島委員・森山委員・大川委員・杉原委員(8名)			
	(事務局) 郷土資料館 高花館長 齋藤学芸員 石戸学芸員			傍聴者 0名
1. 開 会				
2. あいさつ ○会長より 近年、博物館などにおける催し物の申し込み方法が変わってきたように思う。博物館の場合、多くの人に学習の機会を提供するという使命があるので、申し込みの段階で切ってしまうよう幅広い選択肢を用意すべきではないかと強く感じる。				
3. 議題				
白井市郷土資料館設置管理条例施行規則第10条により、会長が会議の議長となる				
(1) 令和5年度事業実績報告について 資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明を行う 協議結果…承認される				
令和5年度新規寄贈資料についてホール内で展示・解説				
[主な質疑応答]				
委 員：資料1裏面の④の研修・協力等のところ、情報提供でかまがや南初富演劇部等2件とあるが具体的に何を行ったのか。				
事務局：1件は白井市郷土資料館を舞台にしたかまがや南初富演劇部によるYoutubeでの演劇公開である。もう1件は白井高校の特別展示に場所を提供したことを指している。				
会 長：大福帳や古文書講座などは需要の割に参加者数が少ないと思われるが対策はあるか。				
事務局：ちいき新聞など白井市外への広報発信を考えている。				
会 長：古文書修補活動の記録映像について進捗はどうなっているか。				
事務局：今年度中は企画展の準備等があるので来年度中にまとまったものを作成する。				
委 員：体験教室では参加者の年代の把握やアンケートなどを行っているのか。				
事務局：応募の際に学年などを聞くといい形で把握している。アンケートについては具体的に次どんなことをやってみたいかと質問を設けてみようかと考えている。				
～ 以上で令和5年度事業実績報告についての質疑終了 ～				

(2) 令和6年度事業計画(案)について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明

前年度からの改善点として大福帳づくりの来福帳づくりへの名称変更を取り上げる

協議結果…承認される

[主な質疑応答]

委 員：「小川瓦木の雲」について産経新聞で取り上げられていたが、こういったプロモーションはどの部署が担当しているのか。

事務局：主に秘書課が執り行っている。今回の件は市に対する寄贈なので郷土資料館中心に推し進めた事業ではなかった。

委 員：資料の「資料調査・収集・整理」の欄が空白だが、せっかくだから具体的な内容を書き込んでもらいたい。

事務局：次回以降対応させていただく。

～以上で、令和6年度事業計画(案)についての質疑終了～

館 長：それでは私のほうから2点。白井市文化センター30年の歩みをまとめた資料を各館で作成し、今回配布させていただいた。3階で展示も行っているのでご覧いただければと思う。

そして、文化センター改修の関係で今年度3回運営協議会を行うとお知らせしていたが、基本計画の策定の進捗がやや予定より少し遅れているので、来年度に3回行うという形で変更させていただく。大規模改修については今年度と来年度で基本計画を作るため、今後皆様に意見を伺うことになると思う。

事務局：その他なければ本日の会議はこれで終了させていただきたいと思う。(終)